

思考コードで入試問題を徹底解剖！

(学校が求める思考力が見えてくる)

2019年度 開成(国語)

思考コードの割合比較

			2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年
変換操作	全体関係	変容 3	A3		34%B3	28%	C3	
複雑操作	カテゴライズ	複雑 2	33%A2		20%B2	18%	C2	
手順操作	単純関係	単純 1	A1	36%	13%B1	18%	C1	
(数)	(言語)	合計	33%	36%	66%	63%		
			A 知識・理解思考		B 論理的思考		C 創造的思考	
			知識・理解		応用・論理		批判・創造	

*全設問数に対する割合を算出しています

国語の出題傾向がめまぐるしく変わる学校であるため昨年度とはかなり異なりましたが、小説文1題、説明文1題という取り組みやすい文章問題にもどりました。単純な書き取りとなった漢字を除き、思考コードのバランスに大きな変動はなく、落ち着いて文章を読み取ること、文章にそって適切に説明することが求められる問題でした。

☐ 小説文 B1~B3

主人公が置かれている立場、周囲の人々との関係から主人公の心情の変化を読み取ります。

問一および問三は比喩がたとえていることをもとにもどして説明する点に気をつけます。特に問三は、行動を起こした時と、この場面での心情の変化を比較するため複雑な思考が必要です。問二は、「生活」と「ライフ」が意味していることの違いを読み取ります。単に言葉が違うだけではなく、それぞれが象徴しているものの違いを意識しましょう。問四は、最後の場面までに主人公が経験したことからのどのように考えや心情が変化していったかという点に注意します。また、それがどのようなことにつながっていくのかを想像しながら説明する必要があり、単純な読み取りを越えた思考の深さが要求されています。

☐ 説明文 A1、B1~B3

初めて訪れる外国生活での体験から筆者に芽生えた感情が、日本に帰国した後にどのように変化したか、その変化について筆者がどのように考えているのかを読み取る問題です。

問一の漢字は基本知識を問うものでした。ここでの失点は避けたいところです。問二は、外国で生活していた自分がどのような様子だったかを説明する問題です。エチオピアでの生活の様子、そこから筆者が感じたことを文章中の表現を利用しながらまとめていきます。問三は「逆カルチャーショック」という表現がどのような意味で、具体的にどのようなことを指しているのかを読み取ります。外国から日本にもどったときに感じたことが「逆カルチャーショック」と表現されています。問四は、「ひとりテレ

ピを観ながら浮かぶ『笑い』は、『感情』と呼ぶにはほど遠い」という線部がどのような意味で用いられているのかを考えて、それについて書かれている直前部分を利用して説明します。ただし、書かれていることだけではなく、そこから想定されることを含めて説明する多面的な思考をすることがポイントです。